

■保育について

・保育理念

社会福祉法人静岡慈恵会は、今から78年前、第二次世界大戦において日本が敗戦し、世の中が貧困と混乱に陥った時、慈愛の心で人々を慈しむという理想を掲げ、親を亡くした戦災孤児の保育や夫を亡くした戦争未亡人の就労支援を始めました。そして、「すべて国民は個人として尊重される」という日本国憲法の下、一貫して、「一市民としての子どもを尊重し、平和な世界の中で、子どもたちの健やかな育ちを支え、子どもたちが自ら未来を切り拓く生きる力を育む」という保育理念を掲げて地域の中で地域の支援を受けながら子どもたちの育ちを支えてきました。

春日保育園は、山や畑や神社や公園など素晴らしい自然環境に恵まれています。自然が子どもの学び舎であり、その中で子どもの可能性を引き出し、子どもの心と体の健康と未来をたくましく、しなやかに生きていく力を育む保育を実践しています。子どもたちは、自然の中で多くの発見と探求する心を培います。成功や失敗を繰り返しながら、おもしろいから遊び込むという子どもたちは、柔軟な発想で様々なことに対応する力をつけることができます。先の見えない不確かな未来を切り拓き、たくましく、しなやかに生き抜く力こそが乳幼児期に身に着けるべき学びであると考えます。遊びを通して、子どもたちが豊かな人間性を身に着け、世界に発信する新しい文化を創造する人材に育っていくことを願っています。

・保育目標

「元気に遊ぶ」「友だちと仲良く」「頑張る」

<目指す子どもの姿>

- ① 元気に遊ぶ・・・遊びを通して「探求心」を育む。遊びを通して表現、思考、言葉など「知」を構築する。

・子どもは、興味を持ったものに無心に遊び込むことによって、様々な発見をし、疑問を持ち、さらに遊びを発展させていきます。遊びこそが、乳幼児期の学びであり豊かな生涯に通じるものです。

- ② 友だちと仲良く・・・他者との関りの中で「競争力」「協働力」を育む。

・子どもは、他者との関わりの中で、思いを共有し、やりたいことに向けて考えたり工夫したりしてその実現に向けて協力し合います。他者とは、同年齢、異年齢の友だちであり、保育者や家庭、地域のコミュニティであり、子どもを取り巻くすべての人々です。

③ 頑張る・・繰り返し遊び込む。②見通しを持って粘り強くやり通す。

・子どもは、繰り返し遊び込むことによって、さらに遊びを深めます。また、遊びの先を予測し、失敗を恐れずやり続けることが大切であると学びます。

・保育課程

「一市民としての子どもを尊重し、平和な世界の中で、子どもたちの健やかな育ちを支え、子どもたちが自ら未来を切り拓く生きる力を育む」という保育理念に基づき保育方針、全体と各歳児ごとの保育目標を立てています。そして、保育目標に沿って、養護・教育・食育といった分野における保育内容を各歳児ごとに年間・月・週ごとに計画しています。

幼児については、環境構成、教材研究を踏まえ、子どもの実態に沿ったデイリープログラムを立て、子どもの現れの中からエピソードを掘り起こし、省察することによって次時への保育につなげています。個々人については、日々の保育経過記録から子どもの成長を職員間で共有し、支援の手立てとしています。

乳児についても、安心で安定した生活が送れるよう、温かな養護と教育のための環境構成や子どもが興味を持てる教材の提供を工夫しています。また、担当制保育による子どもと保育者との愛着形成を大切に丁寧な保育を実践し、チーム保育を心掛け保育者同士のコミュニケーションの良さを大切にしています。個々人については、個別の月案、日々の保育経過記録を作成し、良い成長につながる手立てとしています。デイリープログラムについては、子どもが待つ時間がないよう子どもの好奇心や興味を尊重し、遊びと食と午睡が十分に満たされるよう作成しています。

・行事

行事は子どもの成長を促す手立てであると考えます。結果に軸足を置くのではなく、行事に取り組む過程を大切にしています。他者と話し合い、協力し合い、励まし合う中で子どもたちは成長します。子どもの小さな歩みの中にある喜びや悲しみなど「思い」を汲み取り、共に喜んだり、悲しんだりする中で子どもたちは自己を肯定し、失敗を恐れず挑戦する資質を身に付けていきます。また、日本の文化を大切に伝統行事も自己のアイデンティの確立に関わるものだと考えます。自国の文化や異文化に体験を通して親しんでいくことは、共生社会を生きる子どもたちに必要なことです。また、行事は園と保護者との交流の場でもあります。共に子どもの成長を喜びあう貴重な場です。地域の中での絆は、子どもが成長し園を巣立った後も続いていくものです

・職員配置等の実施体制

幼児クラス（5歳児クラス15名、4歳児クラス12名、3歳児クラス16名）に、それぞれ2名の保育士を配置しています。また、加配の保育補助職員（子育て支援員）を2名配置し手厚い体制を整え、場面場面での困りごとをその場で解決しています。

■こころとからだを育てる特別なプログラム

・キッズサッカー～体を動かす楽しさや協調性を育てる～

講師：フットサルスタジアム Vivace 代表 古杉仁志 他

週1回（年長・年中 隔週）

・リズムダンス ～リズム感・表現力・バランス感覚・柔軟性・巧緻性を育てる～

講師：北島 唯 清水南中等部、清水南高校ダンス部コーチ

元ディズニーステージダンサー

月1回（年長・年中・年少）

・おはなしの会 ～聴く力・想像力を育てる～

講師：深澤 優子 元県立高校国語教諭

月1回（歳児ごと）

<5歳児プログラム>

・囲碁教室 ～知力・礼儀礼節を育てる～

講師：青島 良男 こころを育てる会

・国際交流 ～多様な文化や自然を学ぶ～

講師：静岡市より派遣

・水泳教室 ～大きなプールを楽しむ～

講師：スポーツクラブ セイシン

・動物教室～動物をふれあい楽しむ～

講師：日本平動物園飼育係

キッズサッカー、リズムダンス、お話の会は継続的な活動であり、十分に教育的効果が表れています。技術の向上、取り組む姿勢はもちろんのこと、なにより子どもたちが楽しみにし、生き生きと活動する姿が素晴らしいです。

■かすが食育プログラム

4月

・夏野菜苗植え付け

6月

- ・梅取り、梅シロップ作り
- ・じゃがいも掘り じゃがいもクッキング
- ・さつまいも苗植え付け

7月～8月

- ・夏野菜収穫
- ・夏野菜カレークッキング

9月

- ・大根種まき

10月

- ・さつまいも掘り さつまいもクッキング
- ・さつまいものつるのクリスマスリース土台作り

11月

- ・どんぐり、まつぼっくり拾い（クリスマスリースデコレーション用）

12月

- ・クリスマスリース制作

1月

- ・大根収穫

2月

- ・じゃがいも種芋植え

年間を通して、畑を中心とした食育活動ができました。子どもたちは、実際に、視て、触って、嗅いで、聞いて、味わってという五感を十分に使っての食育活動ができました。畑で収穫した野菜に愛着を持ち、食べることの喜びを味わうことができました。

■人材育成

- ・かすが研修プログラム

目標 学び続けるチーム作り

個別最適化、協働の意味を思考し、理論と実践の往還の中で
学び続ける保育者集団を作っていく。

○日々の実践を語り、省察する。

- ・かすがラウンドテーブルの実践（園内研修）
- ・福井大学・奈良女子大学・駿河総合高校におけるラウンドテーブルへの参加

○実践と理論の往還

- ・永倉みゆき先生（常葉大学保育科特任教授）による研修
- ・鮫島京一先生（福井大学大学教職大学院教授）による研修
- ・幼児教育専門家によるコンサルテーション

○奈良女子大学附属幼稚園との連携により学びの場を広げる

- ・職員の交流研修

○個の力を伸ばす

- ・静岡県保育士会による各種研修会
- ・静岡市保育士会による各種研修会
- ・静岡県保育連合会等による各種研修会
- ・静岡市発達障害者支援センターによる各種研修会
- ・キャリアアップ研修

等に参加する

○公開保育の実施

○公立こども園の公開保育への参加

○園内研修の充実

今年度は、国立大学法人奈良女子大学附属幼稚園との連携により学びの場を広げることができました。また、若手保育士が、福井大学のラウンドテーブルにて実践報告をするという機会にもめぐまれました。日本の教育の個別最適化、協働という方向性が示され、子どもも保育者も学び続ける人材になっていかなければなりません。

本園では、「語り合い、省察するコミュニティ」をテーマに日々の保育のエピソードをグループで語り合い省察するという研修を「かすがラウンドテーブル」と名付け続けてきました。クラスや年齢を超えて語り合うことでそれぞれの悩みや強みに気づくことで生まれる一体感は、強固なチームを作り上げていきます。また、保育は常に予測不能な事態と背中合わせであり、保育者はその未知との遭遇の中で自らの過去の経験や理論などと直面している問題状況を結びつけながら新しい状況を創り出していく力が必要です。そういった直観的判断力を磨き、それぞれの持ち味を生かし、メンバーの貢献にはどんなちいさなことでもみんなの前で感謝するようなチームを目指しています。

また、先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代にあって、保育の現場でも組織のあり方、リーダーシップの取り方、思考方法に変化や柔軟性が求められています。常にこれでい

いのだろうかという疑問を自身に向け、感じ方や考え方を自分や自分たちで変えていくことが大切です。そのために、外部の先生による研修を行っています。令和2年から行っている静岡県立大学短期大学部こども学科特任教授の永倉みゆき先生による保育のコンサルテーションでは、保育の中の子どもの姿から保育者に多くの気づきをお示し頂いています。5回目となる昨年度は永倉先生から「自然が学び舎であるという春日の保育に0歳児から5歳児までの一貫性が出てきた」「ころぶことを怖がらない子どもを育てる」「名のない遊びがおもしろく成長の糧となる」などの提言をいただきました。保育者たちが、春日の保育を皆で考え、日々の保育に取り組んできた成果です。また、福井大学教職大学院教授の鮫島京一先生には、「保育の質を高めるために～直観的判断力と実践を語り合うこと」をテーマに園内研修をしていただきました。また、本園と連携園の奈良女子大学付属幼稚園の鎌内菜穂先生もお見えになり、語り合うことによる園改革のお話もしていただきました。研修を自分ごととして捉え、自分たちの保育に活かすという良い循環が生まれてきたという大きな成果がありました。

また、外部の研修にも積極的に参加しており、特に公立園の公開保育では静岡市の目指す子どもの姿を学んできました。小黒こども園の年5回の公開保育には毎回参加し、クラス担任同士の交流と学びの場をいただいています。本園の公開保育にも、小黒こども園の保育教諭に参加していただいたり、両園の子どもたちが、本園の畑で一緒に遊ぶという交流も年に数回しています。

その他にも園内の環境と安全、散歩コースの安全確認、心肺蘇生・AED研修、プールの安全管理、脱水のサインと予防、窒息のリスクと対応、適切な嘔吐の処理方法、不適切保育・子どもの人権、災害時の対応などを園内研修において適切な時期に行っています。

来年度も引き続き、未来を担う子どもたちと「共に在る」保育者の育成に取り組んでいきます

■社会貢献、地域連携

- ・青少年赤十字の活動・・・畑における活動
- ・幼年消防隊・・・・・・防火パレード
- ・感謝巡回・・・・・・横田郵便局、静鉄電車
- ・春日デイサービスとの交流
- ・静岡美容専門学校（総合防災訓練）
- ・ハロウィン町内パレード

・幼小連携

市内小学校公開保育、学校探検（年長児）、総合的な活動受け入れ

・養成校との連携

常葉子ども保育学概論授業受け入れ

産業技術専門学校子ども学科 リトミック授業、卒論発表会、お話の会受け入れ

保育実習受け入れ

産業技術専門学校子ども学科教育課程評議委員、学校評議員（副園長）

・市内公立中学校

職場体験実習受け入れ、サマーショートボランティア受け入れ

・市内県立高校

保育体験実習受け入れ

地域の中で、多くのつながりを持ち、子どもたちを中心に活動できました。特に今年度は養成校の学生との関わりが増え、相互に良い影響を与え合えました。学生には保育の世界の魅力と将来への希望を持って保育士を目指して欲しいと願います。

地域との関わりは、積み上げていくものです。地域の中で愛される園を目指して活動していきます。